

会 議 録

[所管課 水谷公民館]

会議の名称	平成30年度第3回水谷地区公民館運営審議会
開催日時	平成31年3月19日(火) 午前9時30分～午前11時15分
開催場所	水谷公民館 会議室
出席者	(委員) 関根 健一委員 中島 秀行委員 加藤みはる委員 小森 和雄委員 (事務局) 和田 晋治館長 高見 淳也副館長 柳瀬 大輝主事補
会議次第	【報告・連絡事項】 (1) 学級講座等開催事業等に関して (2) 施設維持管理等に関して (3) その他 【協議事項】(意見交換) (1) 平成30年度事業評価(主要)について(委員の意見聴取) ①子育て関連事業(子育てサロン・ステップアップ講座) ②サロン事業(介護者サロンつばやきカフェ) ③その他 (2) 平成31年度の水谷公民館の事業展開について(意見交換) 【その他】
会議資料	・富士見の公民館(平成30年度事業報告予定原稿) ・各種事業案内
会 議 内 容	
<p>*開会 *あいさつ(館長、水谷地区公民館運営審議会委員代表) *議題 【1 報告・連絡事項】 (1) 学級講座等開催事業等に関して *事務局及び委員から主な平成31年1～3月開催の主要事業について報告 ・コウミンカンカフェ(1/6、2/22、3/10) ・地域自治シンポジウム(2/23) ・はじめての気功太極拳体験講座(2/25、3/4、3/11) ・教育講演会(3/2) ・ピースサロン特別企画 映画&トーク「はじめ嬉しく、あと悲し」(3/16) ⇒質疑等なし</p> <p>(2) 施設維持管理等に関して</p>	

* 公共施設予約システム利用者アンケート（2/12～3/18実施）について事務局から説明。

⇒質疑等なし

(3) その他

特になし。

【2 協議事項（意見交換）】

(1) 平成30年度事業評価（主要）について（委員の意見聴取）

①子育て関連事業（子育てサロン・ステップアップ講座）

事務局：（子育てサロンについて）昨年度と比べて、利用人数が約半減している状況である。他のさまざまな施設による子育て行事等が活発になってきているため、利用が分散していると考えられる。時代に対応したやり方になっていないのではないかとも思っている。

（ステップアップ講座について）参加者の減少がみられる。事業展開のしかたで試行錯誤している。子育て事業の本来の目的として、育児そのものの悩みや学びあいを意識した学習が必要と考えられるが、なかなか人が集まらない現状があり、遊びの要素が強い講座内容を設定する傾向がある。

今後の展開などについて、委員の意見を伺いたい。

委員：子育てサロンの利用が半減した原因は何か。

事務局：現時点で細かい分析はできていないが、次の2点が原因として考えられる。1点目は、呼びかけ不足である。子育て支援センターにメール配信などしているが、十分でないと考えられる。2点目は、先にも挙げたとおり、他の施設などとの利用の分散が考えられる。このほかに、実施内容から利用者同士の広がりを作ることができていないことが考えられる。

委員：年度をまたいだリピート率はどうか。

事務局：年度でメンバーが変わることが多い。

委員：この子育て関連事業が、1年区切りや、毎年同じ内容だと思われる可能性があるのではないか。

委員：アンケートを実施すれば、アンケート自体が周知につながるのでは。

委員：学校の謝礼と比較すると、多くの金額がかかっている。金額に見合った参加者数が求められるのでは。

委員：実施が水曜日ということで、対象は、日中家にいる主婦層か。

事務局：その部分が大きい。

委員：参加者は口コミで集まることが多いのでは。若い層はSNSを見ていそう。

事務局：口コミの要素が大きい。SNSが課題と感じる。若い人たちは、SNSを使い自分たちで情報を得ているように思う。

委員：公民館だよりでの事業周知も、意外と紙面を見ていないのでは。

委員：公民館だよりに限らず、広報を出したという事実のみで終わっている。また、定期発行されているため、自分で必要な情報の項目しか見られていないのかもしれない。見てもらうためのデザインが必要。

委員：世帯数が増えたと言っても、就園児以上の子を持つ世帯が多くを占めれば、この子育て関連事業の対象にならない。増えた世帯数の内訳に注目することが必要か。

②サロン事業（介護者サロンつばやきカフェ）

事務局：公民館では介護者を対象に、ストレスの解消や気分転換を図る機会として介護者サロンを開催している。平成25年度途中から開催され、丸5年が経過したが、参加者の減少がみられる。今年度は、介護者の参加者が全くなかった回が3回あった。この現状について、つぶやきカフェの運営で中心となりやっていた介護者サポーター「すまいる」の意見を伺ったところ、「介護者が公民館に足を運ぶ状況にないのではないか」という意見が上がった。原因は2つあるとみている。1つは、被介護者が施設に入り、介護者が自由の身となり、公民館に足を運ぶ選択肢がないのではないか。もう1つは、在宅介護者は、被介護者のそばを離れられず、公民館に足を運べないのではないか。今後の展開などについて、委員の意見を伺いたい。

委員：敷居が高いように感じる。部屋の問題で、一度入れれば出られないように思われているのでは。また、見知らぬ人に相談することには勇気がいる。イベントなどで顔見知りになる機会を設けられないか。

委員：知らない人と話さないといけないことは大きなデメリット。高齢者あんしん相談センターから、ケアマネージャーなどを通して、人を集められないか。

委員：コウミンカンカフェのような、立ち寄りやすい形式にできないか。

委員：文化祭で高齢者あんしん相談センターと協力し、宣伝してみてもは。

事務局：高齢者あんしん相談センターの職員に相談できるという専門性のアピールが必要。

③その他

補足・質疑なし。

(2) 平成31年度の水谷公民館の事業展開について（意見交換）

事務局：平成31年度の事業について、地域実情を踏まえて考えやアイデア等を委員からいただき、参考とさせていただきたい。

委員：学校として、地域の人材に直接お願いしている現状がある。学校と地域との間をとりまとめるような、コーディネートの事務局があればいいと思う。

事務局：市には、市民人材バンク制度がある。

委員：学校は、人材バンクの情報がない。公民館が相談先になることができるというアピールがあれば相談しやすい。

委員：現在の公民館は高齢者向けと子育て向けの2極化がみられる。働いている世代の参加が少ないのでは。

事務局：コウミンカンカフェなど新たな広がりを目指したい。

委員：行政には、コーディネートを担当して欲しい。広報など、専門でない部分で苦勞しているところが見受けられる。また、市という地域の分け方でなく、近隣市町を含めたエリアで捉えたらどうか。

【3 その他】

(事務局から事務連絡)

- ・コラボ劇場あるぱか公演(3/27)、コウミンカンカフェ(4/13)の案内

*閉会